

尚美学園大学尚友会第8回定期総会報告

会場：株式会社ライセンスアカデミー東京本社会議室

全国の卒業生の皆さん、こんにちは。6月4日（土）に開催された「2022年度第8回定期総会」は盛会裡に終了しましたのでご報告致します。

当日は、久保公人名誉会長からメッセージをいただきました。また、ご多用の中、大学側より Zoom で芸術情報学部長 恩田憲一教授様、総合政策学部長 金原由紀子教授様、スポーツマネジメント学部長 小泉昌幸教授様、情報表現学科長 定平誠教授様、音楽表現学科長 後藤 文夫教授様、音楽応用学科長 竹内誠教授様、総合政策学科長 加藤順一教授様、ライフマネジメント学科兼スポーツマネジメント学科長 眞下英二教授様、教職・資格課程センター長 川島眞教授様をはじめ多くの大学関係者のご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、尚美ミュージックカレッジ専門学校尚美同窓会理事長 佐藤日呂志様にもご臨席をいただきました。本当にありがとうございました。オール尚美として今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



—会長より開会の挨拶—

皆さん、こんにちは。開会にあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。

尚美学園大学尚友会の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のこととご拝察申し上げます。未だに新型コロナウイルス感染症による影響が続く中、第8回尚美学園大学尚友会定期総会にご出席賜り、厚く御礼申し上げます。また、日頃より同窓会の活動にご理解ご尽力いただき、重ねて御礼申し上げます。

近年は予想だにできなかった事が起こる変化の激しい時代となりつつありますが、一方では「大切なもの」を見直す機会を与えられたという見方もあるのではないかと考えます。遠く離れていても心は密にして、いつも仲間の事、卒業生・在校生の幸せを祈り、いつの日か会える日を楽しみにしています。

このような状況の中、会員一人ひとりがこれまで以上に同窓会活動としての尚友会に関心を持ち、若い卒業生をはじめ各世代の方々に主体的・積極的に参加していただける「会員ニーズと時代にマッチした魅力的なネットワーク」を展開して参りたいと思っております。尚友会は、近い将来5万人を超える組織に成長すると見込まれており、社会的な信用・ガバナンスにも配慮しつつ、デジタル化も活用し、会員相互のコミュニケーションを図り、母校である尚美学園大学がこれからも輝き続ける存在であるよう、物心両面で協力できる同窓会組織として大学の発展に尽力する所存です。

大学も社会の変化に伴い様々な変化が求められております。尚友会も社会の変化の中での在り方を模索し、同窓生の人間の成長や経済的な発展を目指していきたいと考えております。

尚友会における企画・運営に関しまして、ご意見・ご要望等がございましたら、尚友会役員や事務局までお寄せください。皆様からのお言葉を参考に、より良い同窓会組織を作り上げたいと思います。

さて、令和3年度の活動を振り返りますと、コロナ禍の中、積極的な活動が制限される中ではございましたが、柴崎幹事長を中心に、尚友会事務局である学生課と連携を密にして、新規事業の学生支援事業では、カフェテリア（ナイス株）より、カレーサービスランチの提供を後援会と



ともに行いました。

また、「学内バリアフリー化」計画であった自動ドア設置について、学友会の卒業記念事業に対して、後援会と助成を行いました。新型コロナの影響は今後も続き、それによって経済的に余裕のない学生も増えてくると考えられます。「学びの継続」のために、学生支援事業等で「今、求められる学生支援の在り方」を大学側と連携し、今後も支援を増やし、学生の学びの場を維持していきたいと思っています。

さらに、コロナ禍の中で停滞気味であった全国支部活動についてですが、2月にオンラインで開催した全国支部長会議において、支部の現状報告を支部長から伺い、役員や大学からご出席の皆様と交流を図ることができました。各支部の皆様が、それぞれの地域で活動して下さることが、つまり同窓会全体の活動であり、その活動を通して同窓会全体が発展し、同窓会が大学を支える努力に繋がる・・・この当たり前の循環が、尚友会でも明確に示されたひとときでした。担当役員の熱意と真摯な努力が実ってこの機会が実現したことに、私自信、深く感動した次第です。

今年度は、大学のお膝元である埼玉に総支部や、西日本エリアに拠点となる支部設立を模索していきたいと思っております。今後も支部活性化のために支部長と連携を密にして、卒業生の絆を深めていきたいと思っております。

尚美学園大学の発展を願い、大学を支えると同時に、卒業生にいろいろな活動を提供しつつ、建学の精神である「智と愛」のもと、「社会に役立つ人の育成」を実際の社会において行ってきました。短大同窓会から、この長い、心温まる歴史を持つ同窓会は、今もいろいろな意味で成長を続けています。今回のオンライン総会の例にみられるように、新たな方法でネットワーク構築などを含め、さらに活動の範囲を広げ、深めていきたいと願っています。

最後になりますが、これからも全国の卒業生の皆様と一層連携を密にして、尚美学園大学の発展と、尚友会の活性化に努めていく所存であります。全国の会員の皆様はじめ関係各位の皆様方には、今後とも引き続き御支援、ご協力をお願い申し上げます。開会の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

○第1号議案 2021年度事業報告案について説明する。

2021年度の総会は、新型コロナウイルス感染拡大の深刻な事態が続いていたため、会員の皆様はじめ総会出席者の方々のご健康や安全面を考慮して、総会の開催を Web 開催方式とさせていただきます。

概況にありますように、2021年度事業は、卒業生並びに大学関係者からのご支援ご協力を賜り実施致しました。主な事業のうち、第7回定期総会についてはコロナ禍の中、集合方式を中止し Web 開催とし致しました。

○第2号議案 2021決算報告案、貸借対照表及び監査報告では、科目別に大項目のみ読み上げ、監査報告を行った。はじめに会計担当高井理事より、科目別に大項目のみ読み上げる。

- ・収入の部、会費 16,820,000 円、維持会費 122,589 円、前年度繰越金 22,771,057 円
収入の部総計：39,713,906 円
- ・支出の部、本部費 1,004,585 円、事業費 5,809,685 円、助成費 7,400,000 円、周年記念事業費 5,000,000 円
- ・支出の部総計 20,000,770 円
収支の部：総計 19,713,136 円が次年度繰越金となります。
- ・次に貸借対照表であります。資産の部：合計 39,714,972 円

次に監査報告を井戸監事が読み上げる。

○第3号議案 2022年度事業計画案と第4号議案予算案を合わせて説明する。

2022年度は、コロナ禍の状況下で「学びを止めない」ではありませんが「同窓会活動を止めない」を目指し、With コロナスタイルで活動を進めていきます。今後徐々に様々な活動が可能となると思われますが、完全な終息が容易に見通せない中で、従来通りの活動が可能な状況になるかはまだまだ不透明です。

尚友会としては、今後の状況の推移を見ながら、オンライン会議システムの活用なども含めて、可能な限り会員に対する支援を図るよう努めてまいりたいと考えております。

- 尚友会事業では、第8回総会をZoom形式で行うなどお示しした8つの事業を展開します。
- 助成事業では、学友会活動への助成をはじめ、イベント助成を積極的に活用していただけるように申請様式のHPへの掲載など、広く周知してまいります。
- また、コロナ禍で支部活動が停滞していた状況を鑑み、適宜支部長と連絡を密に取り合いながら、役員による支部状況視察を兼ねて支部活性化に積極的に関わっていきたいと考えている。特に、芸術情報学部音楽表現学科、舞台表現学科の入学生確保について各支部とも連携を取りながら、学生募集支援事業の活用など具体的に打ち手を考えていきたいと思っております。全国の尚友会の皆様の熱いご支援をお願い申し上げます。
- さらに、好評であった昨年度新設された学生福利厚生助成を継続し、コロナ禍による学生支援事業を今年度も手厚く実施していきます。

○司会の富山副会長より、以下の確認を行った。

議題について、慎重かつスムーズなご審議をいただき、すべて可決され、報告事項も含めて、滞りなく無事に終了しましたことを、ご報告します。

役員一同、同窓会の発展に邁進する所存でございますので、卒業生の皆様には、これまでも増して、ご支援をいただけますように、お願い申し上げます。ありがとうございました。

—終わりの挨拶—

本日は、昨年に引き続きオンラインによる総会を実施しました。全国各地から参加いただき、貴重なご意見やご要望を頂戴致しました。誠にありがとうございました。今後とも、3密（密閉・密集・密接）を基本とした「新しい生活様式」に配慮しながら、役員一同、尚友会運営を心掛けたいと思っております。

また、6月に入って首都圏を中心に感染者が減少傾向とはいえ、コロナウイルスの脅威は続いています。この感染が少しでも終息に向かっていくことを祈念いたします。今後も会員の皆様のより一層お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様におかれましては、体調管理に十分ご留意いただき、今後ともお元気で、ますますご活躍されますことをお祈り申し上げます。閉会のあいさつといたします。本日は誠にありがとうございました。

